

～ 日本の未来は女性が創る ～

第8回

明日のビジネスを担う 女性たちの全国交流会 in 東京

開催レポート

2018年2月20日、東京・学士会館において
「明日のビジネスを担う女性たちの全国交流会 in 東京」
を開催しました。
当日のパネルディスカッションを一部ご紹介いたします。



※所属・肩書等は交流会開催時のもの

パネリスト&コーディネーター



小林 いずみ氏 公益社団法人経済同友会 副代表幹事

大学卒業後、化学メーカーに勤務。1985年にメルリンチグループに転職し、主にデリバティブ市場業務に従事。2001年メルリンチ日本証券株式会社代表取締役社長に就任。2008年11月から2013年6月まで世界銀行グループ、多数国間投資保証機関(MIGA)の長官。2007年から2009年、2015年4月から公益社団法人経済同友会副代表幹事。他にもANAホールディングス株式会社社外取締役、三井物産株式会社社外取締役、株式会社みずほフィナンシャルグループ社外取締役を務める。

パネリスト



水本 伸子氏 株式会社IHI 常務執行役員

1982年石川島播磨重工業株式会社(現株式会社IHI)に入社し、技術研究所勤務。2004年に本社移転PJ室長に抜擢され、オフィス起点の働き方改革を推進し、2006年に4200名を豊洲新社屋に移転させる。その後、本社で、経営企画部新事業企画G長、人事部採用G長、CSR推進部長を経験。2014年に執行役員昇格、グループ業務統括室長、2016年より調達企画本部長を務める。社内では、女性活躍推進のリーダーとして、研修の企画やネットワークの構築を進める。技術同友会ダイバーシティ推進委員会委員長。



垣内 美都里氏 株式会社ぐるなび 取締役 執行役員

1988年日産自動車株式会社入社。法務室にて北米、アジア、国内の各種法務業務に従事。各種プロジェクトのリーガルサポートやグローバル法務体制の構築等に携わる。2014年7月に株式会社ぐるなびに入社。管理本部ダイバーシティ推進室長、法務コンプライアンス室長を兼務。法務業務全般、並びにダイバーシティの推進役として女性のキャリア支援や多様な人材が活躍できる仕組みづくりに取り組んでいる。



森島 千佳氏 味の素株式会社 執行役員

1986年味の素株式会社入社。調味料及び加工食品の開発マーケティングを担当。2002年より健康ケア事業本部にてアミノ酸の健康価値開発を推進、2005年健康通販事業を立ち上げ、睡眠サプリメント「グリナ」発売、2011年ダイレクトマーケティング部長。2015年6月執行役員就任、7月より食品事業本部家庭用事業部長として、「クノール」「ほんだし」「CookDo」等の国内の調味料・加工食品事業を担当している。

転機となった経験

森島氏: 大きな転機の一つは、会社で新たに立ち上がった健康事業部門に加わったことです。それまで15年間、調味料や加工食品の開発をしてきた私が、まったく畑の異なる事業に携わるようになったのです。正直なところ、異動したくはありませんでしたが、そこでサプリメントの通信販売事業の立ち上げに関わり、事業の流れというものを経験することができました。



10年近く経った頃、私に部長への打診がありました。でも、その時はウェルカムとは返答できませんでした。そんな私に上司は「自分のことばかり考えるのではなく、自分を応援してくれる人や後輩のことをもっと考えなさい」と一言。部長へのキャリアアップを経験し、自分の視座が上がった気がします。

水本氏: 一番大きな転機は、研究員であった私が、本社の移転プロジェクトのリーダーに抜擢されたことです。新しいオフィスで働き方改革を進めていくというミッションもあり、研究とは全く違う任務を遂行したことが大きな成長につながりました。



その後は、経営企画部、人事部、CSR、業務統括室、そして現在2年目となる調達本部長へと、次から次に新たな試練が与えられてきたのですが、それまで経験してきたこととは何の脈絡もないように思っていた仕事も、やってみると見たことのある景色が見えてくるのです。その経験が自分の成長につながった

のかなと思っています。

垣内氏: 仕事に対する気持ちが変わるきっかけになったのは、厳しい上司に巡り会ったことです。いま振り返ると正しい指導であったと思うのですが、まだ甘えた気持ちを持っていた当時の私にとっては涙が出るような毎日でした。そんな厳しい上司の元で鍛えられ、自分の仕事に対してプロフェッショナルな意識を持つという意識を開眼させられました。



もう一つの転機は、当時勤めていた日産自動車にフランスのルノーという外資企業の参入があり、それまでの環境がガラリと変わったことです。日本企業の価値観や慣習はことごとく否定され、自分がこの会社で生き残って貢献しつづけるために何をすべきかということを強く意識するようになりました。

小林氏: じつは学生時代に3カ月間ヨットに乗って南太平洋に行ったことがあります。卒業後は日本の会社に勤めたのですが、社会人になってからもヨットでの3カ月生活の中で自分の生き方を考えさせられたことが消えずにモヤモヤしていました。4年間勤めた会社を辞めて、外資系の証券会社に転職したことが大きな転機となりました。ですから、仕事に限らずプライベートな経験が自分自身のキャリアにも影響して、それが転機になり得ることもあるのです。



上司やロールモデルとの出会い

垣内氏: 入社したばかりの頃はまだ育児休業法もなかったのですが、すでに出産から数カ月で復帰された先輩女性がいて、管理職に近いポジションでチームを引っ張ってくれていました。ロール



モデルが身近にいたことは私にとってすごく大きな意味がありましたね。漠然と「こんなふうになれるといいな」と思っていました。法務の仕事に携わっていた頃の上司はたいへん厳しい方でした。でもその厳しい指導は自分を鍛えてくれたと思っています。「明日はこんなことを言われぬように用意していこう」と、自分の頭で考えて作戦を練る習慣が身につきました。

水本氏: 私は多くの仕事に携わってきたので、異動のたびに上司も変わっていきました。でも、そのおかげで元上司という財産を多く得ることができたと思っています。今でもいろいろなことを相談することがあります。

森島氏：私が基幹職に就いたときには、すでに部長として活躍する先輩女性がいたのですが、自分とは性格も仕事の向き合い方も違うと思ったので、同じようにはできないと思っていました。そういう意味では、どこかで開き直ってありのままの自分を受け入れて、自分のやり方でやってきました。

何故ダイバーシティ推進が必要か

垣内氏：当社の運営サイトを利用している人は性別や年齢、職業、国籍など様々ですから、ものの見方も多様です。それまで築き上げてきたものを変えたくないというのが人の心理ですが、流れない水がだんだん淀んでいくのと同じで、やはり変わっていかねばいけない。マジョリティーではない人たちの考え方も取り入れることが、真に良いサービス、真に良い製品は生むのではないかと考えています。



森島氏：当社では商品開発を担当する女性も増えていますので、そういう意味では女性の感性が活かされてきて、良い方向に進んでいると思います。ただし、ダイバーシティ推進というのは、女性の活躍を推進するというだけではありません。それぞれ異なるタレントを持つ人たちが同じビジョンに向かっていくときに、同質の人同士にはなかったような新しい価値創造が現れたり、イノベーションが起こることによって、ダイバーシティの一番目指すところはそこなのではないかと思っています。

水本氏：男性が圧倒的多数を占めている当社では、「女性活躍とは何か」と疑問の声もあることは事実です。私は、価値観の違う人が組織に入っていく「おかしいでしょう」と言える風土になっていくことが組織に変化を生み、これからの時代についていくことができる力になると思っています。

小林氏：「おかしいでしょう」と言えるような雰囲気突破口をつくるためにも、女性が管理職や役員に就くことは意味があるということでしょうか。みなさんが今の立場におられるのは、やはり理由があると思います。ご自身ではどうお考えですか。

小林氏：私の場合、「社長に」と声がかかったとき、日本の金融会社で社長のポストに就いている女性はいませんでした。私も自分のスタイルで務めていけばいいと思っていました。

水本氏：私は自分自身の好奇心の強さが今につながっていると思います。面白いと思ってやっていると、ある時点で会社の誰かが期待をかけてくれるようになるのです。その期待に自分の好奇心で応えることができるという、その繰り返しが今のかたちになったのではないかと思います。

垣内氏：例えば野球の試合では、監督がベンチに控えている選手たちの中からピンチヒッターに指名する人がいます。仕事においても、この人に任せればやり遂げてくれると思うから指名されているのです。そう思ってもらえるように、頼まれたことは責任を持って、かつ付加価値をつけてアウトプットしていくことを常に意識してきました。

森島氏：いま考えるとラッキーな部分もあったかもしれませんが、与えられた環境や立場の中で、自分なりに一生懸命やってきたという思いはあります。物理的には鬼のように残業したりして、苦しくてつらい時期もありました。でも、この仕事を好きだと思ってやってきました。今の仕事も非常にやりがいを感じています。



小林氏：難しい場面にあっても、それを楽しんで仕事に携わってきたという部分は共通しているのではないかと思います。私自身、今の世の中では「ブラック」と言われるような働き方をしてきましたが、それが苦しいと思ったことはまったくなく、夜中まで、朝まで働いても苦にならないくらい楽しかったですね。

垣内氏：私は、大変なときはやはりつらかったですよ。でも、目標を達成できたというその達成感がほしくて頑張り続けてきたところがあります。

今の立場で見えてきたこと

水本氏：正直、今でも仕事を辞めたいと思うことがあります。すでにリタイアして悠々自適な生活を送る仲間もいますし、自分ももっと遊びたい、と。でも、飽くなき好奇心を追及し続けて

いる先輩方の姿を見ると、人生100年時代のこれから、たかが60代で立ち止まっていたはいけないんだと刺激を受けます。役員になって一番強く感じるのは、会社の中だけでなく社会



からの期待がものすごく増えたことです。女性活躍推進の追い風もあって、男性役員だったらまわってこないような素晴らしい仕事がまわってくるのです。社会から期待されているということはそれだけ勉強も必要ですが、そのぶん、これまで自分の知らなかった世界が広がって自分自身を大きくすることができるようになります。

森島氏：あるチャンスを与えられて、チャレンジしようか迷ったときは、やらずに後悔するよりもやってみたほうがいい。たとえ失敗しても得るものがあるし、長い人生、長い会社生活の中ではほんの一瞬のことなのです。ですから、チャンスが巡ってきたときはぜひチャレンジしてもらいたいですね。

自分自身は上司と仲間に支えられてここまで来たと考えています。一緒に苦しい時代を苦勞した仲間は今でも宝物のように大事な存在ですね。

垣内氏：プライベートでも2人の子の出産や両親の看取りなどいろいろありましたが、やると決めたからにはあまり悩まずに、

“ケ・セラ・セラ”のマインドでひたすら突き進んできました。今、つらい状況にいても、続けていれば必ず見えてくる何かがあります。ポジションが上がれば収入も上がりますし、できることも増えてきます。やはりお金というのはそれなりの強さを持っているので、ないよりはあったほうが良いと思います。

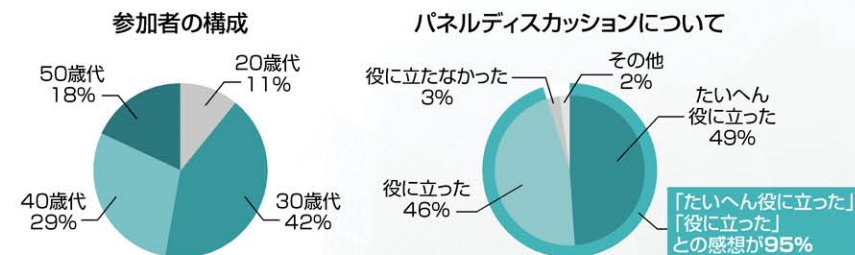
小林氏：お金というのは、じつはすごく重要です。経済的にも豊かになることで、享受できるメリットも多くなります。仕事は決してボランティアではないので、会社への貢献に対して見合う対価をしっかりもらうことにもハングリーであるべきではないかと思っています。

会社を辞めたいと思っていても、朝起きたときに1%でも仕事の続きが気になったり、楽しみに思うことがあったりするならば、会社に行く価値はあると思います。そう思えなかったとしたら、違う人生を選択することを考えてみてもいい。今いる会社の中だ



けではなく、人生全体でキャリアアップを考えてもらいたいですね。そして自分の強みを意識しながら、できることを最大限に活かす仕事の仕方を考えていくことが重要だと思っています。

参加者からは「参考になった」「モチベーションアップにつながった」等、多くの声をいただきました！



参加者の声

- 本音の話が聴けてよかったです。活力を得られる良い機会となりました。
- 「役員＝雲の上の人」というイメージでしたが、身近に感じられました。
- 女性管理職として悩んでいることが多々ありますが、自分のキャラクターを活かしつつマネジメントしていきたいと思いました。
- 懇親会で悩みが似ている人との交流ができてうれしかったです。



懇親会の様子

< 2018年度の開催予定 >

東京、大阪、福島、宇部（山口県）の4都市で開催予定です。
詳細は決定次第、当財団のホームページにてお知らせいたします。

<http://www.jiwe.or.jp>